

「新未来『創造』とくしま行動計画」及び 「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」評価結果の概要

1 県政運営評価戦略会議について

政策推進に係る「県民意見の積極的な反映」と「県民目線からのチェック機能の強化」を図り、「徳島ならではの」「新たな事業評価システム」を創造するため、県政運営評価戦略会議（以下「戦略会議」という。）を設置している。

この戦略会議において、平成27年7月に策定された、県政の運営指針である「新未来『創造』とくしま行動計画」（以下「行動計画」という。）及び、挙県一致で地方創生を推進するための「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」（以下「総合戦略」という。）の施策や事業について評価を行った。

評価結果は、「徳島県総合計画審議会」、「地方創生“挙県一致”協議会」にそれぞれ提言され、次年度の計画や既存事業の見直し、新たな施策展開などに繋げていくこととしている。

また、戦略会議においては、「とくしま目安箱」や「わくわくトーク」などに寄せられた県民からの意見・提言について、優れたものを選定し、徳島県総合計画審議会に提言することにより、県政への積極的な反映を図ることとしている。

2 評価方法について

（1）評価対象

行動計画に位置付けられた主要施策（144施策）及び総合戦略に位置付けられた主要事業（112事業）を対象とした。

（2）評価の視点

行動計画及び総合戦略の深化につながるよう、「平成27年度の取組及び進捗状況」と「今後の取組方針」の2つの視点から評価するとともに、戦略会議の委員の提言に重きを置いた「未来志向型の政策評価」として実施した。

（3）会議の開催状況

今年度の戦略会議は、行動計画について3回、総合戦略について1回開催した。

3 行動計画の評価結果について

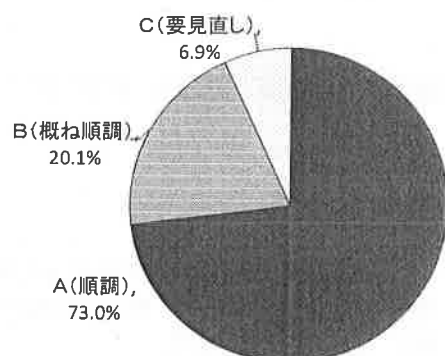
(1) 総括

「A（順調）」と評価されたものが105施策（73.0%）、「B（概ね順調）」とされたものが29施策（20.1%）、「C（要見直し）」とされたものが10施策（6.9%）となった。

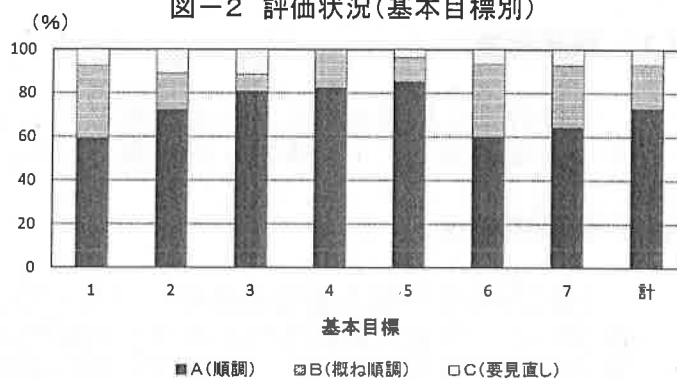
表－1 主要施策の評価結果

基本目標	評価区分						主要施策数の計
	A 順調	(%)	B 概ね順調	(%)	C 要見直し	(%)	
1「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現	16	59.3	9	33.3	2	7.4	27
2「経済・好循環とくしま」の実現	13	72.2	3	16.7	2	11.1	18
3「安全安心・強靱とくしま」の実現	21	80.8	2	7.7	3	11.5	26
4「環境首都・新次元とくしま」の実現	14	82.4	3	17.6	0	0.0	17
5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現	23	85.2	3	11.1	1	3.7	27
6「まなび・成長とくしま」の実現	9	60.0	5	33.3	1	6.7	15
7「大胆素敵・躍動とくしま」の実現	9	64.3	4	28.6	1	7.1	14
計	105	73.0	29	20.1	10	6.9	144

図－1 評価状況（全体）



図－2 評価状況（基本目標別）



(2) 基本目標別 意見提言（抜粋）

基本目標1 「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現

- 移住・交流施策の推進として、「転入・転出者数の均衡」や「移住者数850人」の目標を掲げてはいるが、これは、ハードルが高くかなり難しいと思う。目標達成には、働く場、生活、教育の充実など、総合的に地域の魅力を上げていく必要がある。
現在は、地方において人の取り合いになる中、徳島県も消費者庁の本格移転を目指すなど積極的に取り組んでいる。今後も、目標達成に向け頑張ってもらいたい。
- 農業の様々な分野で活躍する女性をモデルとして取り上げ、その姿を発信することによって、農業に携わる女性を増やして欲しい。

基本目標2 「経済・好循環とくしま」の実現

- 東京オリンピック・パラリンピックのエンブレムに藍色が採用されたのをチャンスに、国内外への藍染商品の発信を強化して欲しい。併せて、地元である徳島県民がもっと藍染商品を使用することで、徳島にきた観光客に藍を強く印象付けるような運動を盛り上げて欲しい。
- 北イタリアの農家レストランのように、徳島の豊かな自然の中で、地元の食材を使った、おしゃれなレストランを作り、全世界に向けて「阿波フードエリア」として発信してはどうか。

基本目標3 「安全安心・強靱とくしま」の実現

- 防災、減災対策については、地域防災リーダーの養成などソフト面で非常に充実してきている。また、ハード面についても、公共建築物の耐震化については、かなり進んでいる。
一方、民間の木造住宅の耐震化促進については、先の熊本地震でも住宅倒壊で死亡する方が多数いるという現状を踏まえると、なお一層の強化が必要ではないか。
- 安全・安心な食の確保については、偽装できないような制度設計も大切だが、偽装がなされた場合にそれを見抜く仕組みが必要である。生産者サイドと消費者サイドが両面から一体となって取り組む必要がある。
消費者庁の誘致を目指す徳島県としては、是非、全国に誇る仕組みを早期に実現して欲しい。

基本目標4 「環境首都・新次元とくしま」の実現

- 剣山を「地域の宝」として次世代へ継承していくため、剣山サポーターによる自然保護活動等に取り組んでいる。
今後は、徳島の山において、トレッキングを通じた健康づくりや森林づくりの推進など部局を超えた総合的な観点で施策を進めて欲しい。
- 地域の良好な環境づくりとして花を通して来訪者の心を癒やすため、都市公園内において官民協働で花壇を設置しているが、都市公園に限らず、広く人が集まる場所を対象としてはどうか。

基本目標 5 「みんなが元気・輝きとくしま」の実現

- 「65歳以上＝高齢者」の概念払拭に向けた政策提言を数値目標として掲げているが、この概念の払拭は、なかなか県民に浸透していないのが現実ではないか。例えば、65歳以上を生産年齢人口（現在は、15歳以上65歳未満）に入れるなど、どの部分でこの概念払拭を狙っていくかという、ポイントを絞った施策展開が必要ではないか。
- オープンデータの利活用促進については、県だけでなく、多くの公共データをもつ市町村とも連携して公開データの充実を図って欲しい。

基本目標 6 「まなび・成長とくしま」の実現

- 動画などのツールが増えたことにより、子供達の読書量が減ってきている。読解力の低下は、作文力やコミュニケーション力の低下に繋がり、大学生や社会人になっても影響が残る。
充実した学びの推進には、読書量を増やすプログラムを、今後更に充実させていくことが大切である。
- リオオリンピックでは、日本のアスリートが大活躍している。本県でも、トップアスリートの育成に取り組んでいるが、もっと指導者の育成や周りの環境の整備にも力を入れて欲しい。
また、競技力向上だけでなく、怪我をケアできる専門的な指導者の配置も大切ではないか。

基本目標 7 「大胆素敵・躍動とくしま」の実現

- 東京オリンピックの開会式で、阿波おどりをできないか。阿波おどりの本場である徳島県として、実現に向けて取り組んで欲しい。
- とくしまマラソンについて、年々非常に賑わいを見せており、参加者も増えている。徳島のお接待の気持ちが全国に知れ渡っているような感じがする。
今後、とくしまマラソンについて、県内各市町村の友好都市などを通じて、一層多くの外国人の方に参加してもらいたい。そして、とくしまマラソンのお接待の気持ちを世界に広めて欲しい。

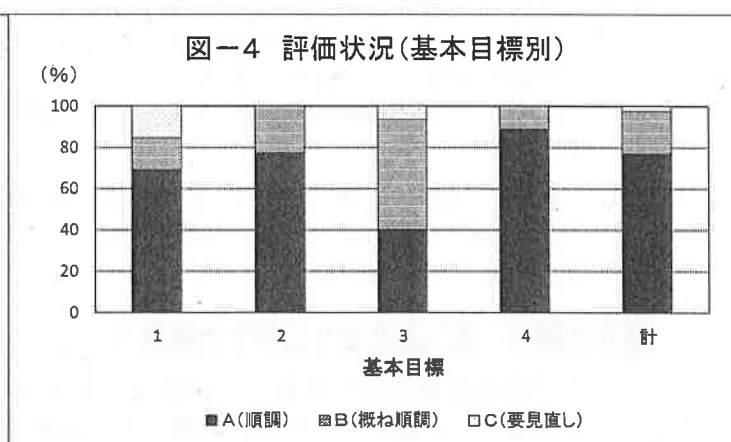
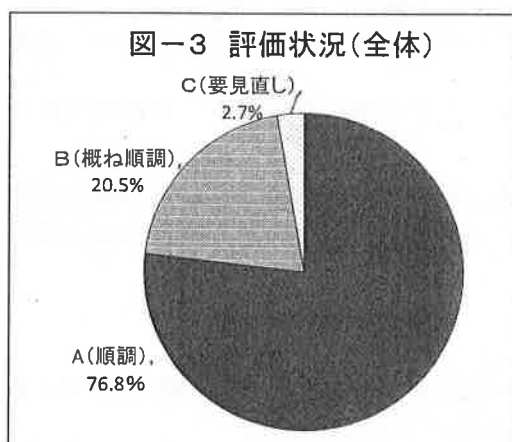
4 総合戦略の評価結果について

(1) 総括

「A（順調）」と評価されたものが86事業（76.8%）、「B（概ね順調）」とされたものが23事業（20.5%）、「C（要見直し）」とされたものが3事業（2.7%）となった。

表－2 主要事業の評価結果

基本目標	評価区分						主要事業数の計
	A 順調	(%)	B 概ね順調	(%)	C 要見直し	(%)	
1 新しい人の流れづくり	9	69.2	2	15.4	2	15.4	13
2 地域における仕事づくり	24	77.4	7	22.6	0	0.0	31
3 結婚・出産・子育ての環境づくり	6	40.0	8	53.3	1	6.7	15
4 活力ある暮らしやすい地域づくり	47	88.7	6	11.3	0	0.0	53
計	86	76.8	23	20.5	3	2.7	112



(2) 基本目標別 意見提言（抜粋）

基本目標1 新しい人の流れづくり

- 「新しい人の流れづくり」の取組みとして、従来から経済的に結びつきの強い関西圏にも重点を置くべきではないか。神戸や大阪などの関西圏に流出している人の流れを徳島県に取り戻すべく、いかに関西圏へ発信するかということが大切である。
- 大都市圏等からの本社機能の誘致については、企業側にも事情があることから、なかなか難しいと思う。まずは、神山町等におけるサテライトオフィス立地のように、人の繋がりを出発点とし、地域の魅力を企業に分かってもらうという長期的な視点に立った戦略も必要である。

基本目標2 地域における仕事づくり

- 日本全体で考えると、従来のように「ものづくり」に力をいれることはもとより、第3次産業の付加価値をいかに高めるかということが重要である。物を輸出するだけでなく、人に来てもらう「観光」に力をいれるべきである。
本県の場合、阿波おどりというコンテンツを、お盆の4日間だけでなく、いかに生かして、アジア、全世界に発信していくかが大切である。
- 雇用の確保だけでなく、起業の場として徳島県が選ばれるように、環境を整えることも大事ではないか。

基本目標3 結婚・出産・子育ての環境づくり

- 結婚、出産、子育てをしながら働く女性が増えている。国でも働き方改革が議論され、働き方が変わってきている。
これらの変化に対して、受け身ではなく、変化を予測し、先に対応することが非常に重要である。地方同士の競争の中で、いかに先進的で面白いことに取り組み、徳島県の強みを増していくかである。
また、子育ての環境整備やサポートは重要なことなので、今後とも、積極的に取り組んで欲しい。
- 結婚、出産、子育てについての考え方が多様になってきていることから、婚活支援のボランティアなど、現場で頑張っている方々と県の関係部局等と一緒に今後の戦略を考えるような場を設けてはどうか。

基本目標4 活力ある暮らしやすい地域づくり

- 「徳島版地方創生特区」の創設は、各地域が個性を生かして、地域の魅力がより向上することに繋がっており、素晴らしい施策である。
また、若者や女性が活躍できる場の創設についても、徳島県は、多くの施策がなされている。
さらに、最近では、徳島に愛着のある若者も多く、ともに地元を盛り上げていこうという点で、頼もしく思う。今後とも、郷土愛を育む教育に力を入れて欲しい。
- 単身世帯の増加や地域とのつながりの希薄化により、住民の自助及び共助の低下等が生じており、県などの行政に対する県民ニーズがますます増えている。
しかし、行政にも人的や財政的に限界があることから、今まで以上に優先順位をつけて取り組むことが重要である。
また、行政以外のボランティアやNPO法人をいかに巻き込み、その人材を育成していくかが大切である。

5 戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」

	提言先	項 目	意 見 ・ 提 言 の 内 容
1	目安箱	大学と一般の方との関わりについて	大学と一般の方々との関わりを強くしてもらいたい。生涯教育の流れがある中、大学という教育の場をもっと活用し、多くの人と関わることで、今日欠如していると言われているコミュニケーション能力の向上が期待できるうえ、その土地を愛することにもつながり、徳島県の人口減少を防ぐことにもなるのではないかな。
2	目安箱	徳島駅に駅メロを	「駅メロ」は、その駅を中心とした街にシンボリックなイメージを与えるだけではなく、地域にまつわる応援歌や伝統曲を伝える絶好のアピールポイントともなる。 初めて駅を使う観光客、いつも駅を利用している通勤・通学客、帰省や出張でたまに訪れる人々、誰にとっても「徳島に来た」、「徳島に住んでいる」という強烈なイメージを残せると思う。
3	目安箱	オリンピックオープニングに阿波おどりを	オリンピックの開会式に、一糸乱れぬ阿波おどりが登場すれば、世界中の人が注目し、絶賛すると思う。
4	目安箱	小松島港の有効利用について	小松島港周辺を、県内外からの集客を見込むバーベキューサイトにしてはどうか。オートキャンプ場やバンガローも併設できれば一層良いと思う。 また、港湾にマリナを建設し、周辺地域からの、プレジャーボートやヨットでの来場を売りにすると話題性と需要もあると思う。県産野菜や食肉・魚・焼きちくわなどの販売も行うことで、徳島食材のアピールにもなり、売上収入も見込めるのではないかな。
5	目安箱	「住んでみんなで徳島奨学金」をつくり「若者移住」を	県内から県外へ進学した人に対しては「とくしま回帰」を条件に、また、県外者へは「徳島移住」を条件に、奨学金を優遇し、奨学生には徳島の魅力や就職、住まいの情報を定期的に提供し、長期休暇時には「プチ徳島留学」や「県の政策提案アンケート」等、卒業前から徳島を身近に感じるような企画・援助を行ってはどうか。
6	目安箱	阿波おどり期間限定のスマホアプリなど開発してはどうでしょう	リアルタイムに、どこになんという連がいるのかが全て分かる阿波おどりアプリを作成し、システムを運用してみてはどうか。

	提言先	項 目	意 見 ・ 提 言 の 内 容
7	目安箱	コミュニティバス拡充について	県内でのコミュニティバス導入推進について、交通網の拡充は県全体の活性化にも繋がると思う。 利用しやすい時間帯に特化して最低限の便数にする、安価な小型車を使う等の工夫により、多くの地域でこのサービスが広がって欲しい。
8	目安箱	徳島を日本のビジネスが生まれる場所にする	ビジネスで利益を出し、お金・人・モノ・情報を徳島に循環させていくことが雇用の促進・税収の増加・地域の活性化に繋がると思う。 ビジネスコンテストやオーディション形式でのアイデア発表の機会をたくさん作り、世界中の投資会社や投資家を集めて資金調達し、徳島でビジネスの花を咲かせる。それを日本一の規模で行ってはどうか。1000個のビジネスから世界を驚かすビジネスがきっと生まれます。
9	目安箱	民泊について	阿波おどり期間中、ホテルが予約できなくて、高松から期間中毎日通っていたと聞いたことがあるので、阿波おどり期間の前後だけでも、空いているアパートやマンションで民泊ができれば良いと思う。 民泊が認められれば、周辺の飲食店や貸し布団店などの商売も潤うと思う。
10	目安箱	T・Kブランド藍グッズの新デザイン募集について	藍ブランドの更なる知名度を高めるため、新デザイン商品を県民から公募し、10点を選定して、開発・商品化し、積極的に販売してはどうか。 県民の藍ブランドに対する関心、意識が大幅にアップするとともに、東京オリンピックエンブレムの知名度とリンクして相乗効果が期待できると思う。
11	わくわくトーク	木材利用促進について	木材の利用促進には、木材に対する理解が重要である。木材利用増のために、教育施設に木造建築を導入し、子どもたちが将来、木材を利用したいと思えるようにすべき。